

授業科目区分	授業科目名	授業方法	単位	時間	関連の深い授業科目
専門基礎	公衆衛生学	講義	4	80	医療概論 臨床医学総論 東洋医学臨床論 病理学
学科・学年	担当教員名	科目関連 実務経歴	実務経歴・分野・授業科目との関連等		
鍼灸学科 1学年	久保田 明美	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	特記事項なし		
授 業 目 標 *詳細な目標は、授業の冒頭で提示					
<p><b>【教育目標】</b> 公衆衛生の目的は人間集団の疾病の予防、健康の保持・増進を達成することである。感染症の克服の歴史疾病構造の変化、代表的な指標などから理解、特に、生活習慣病、食品衛生、環境保健、産業保健、母子保健、高齢者保健、および介護について十分に理解する。</p> <p><b>【行動目標】</b> ①本科目履修範囲内から作成された国家試験相当の難易度の多肢選択問題を正答率60%以上で解答できる。 ②医療従事者としての衛生観念・健康増進・疾病予防など公衆衛生上の問題などの説明できる。</p>					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
健康を守り、生活の質を高めるための学問であるため、現在の社会が直面する健康課題への理解を深め、将来の課題に対する広い視野から解決策を考える基盤であり、また、関連科目である「臨床医学総論」「東洋医学臨床論」「病理学」の基礎知識の位置付けとなる。					
教科書・参考書					
<p>主題として取り扱う教科書は、東洋療法学校協会「衛生学・公衆衛生学」、参考として扱うのは東洋療法学校協会編「医療概論」</p> <p>予定表中のテーマ欄には、場合によって主として取り扱う内容を主題として、また、主題の理解に参考となる内容を教科書該当項目とページ数を表記した部分がある。授業の回によって主となる教科書が本科目名と異なる場合があるので注意されたい。</p> <p>その他、学習に役立つ書籍等がある場合は都度紹介する。</p>					
受講時留意点、その他					
<p><b>【全科目受講時共通事項】</b>※詳細は学生便覧受講における遵守事項参照</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●病気その他止むを得ない事由以外での欠席はしないこと。</li> <li>●授業開始5分前には所定教室で待機し、指定された席で授業を受講すること。</li> <li>●授業中は私語、および授業内容に関係のない行為は自粛すること。</li> <li>●授業中の電子機器の使用は禁止する。但し、担当教員から許可を得た場合はこの限りではない。</li> <li>●当番は授業前後の準備、整理を行うこと。教室、実習室の整理整頓、採光、換気、節電に努めること。</li> </ul> <p>※注意 授業開始時間後の入室は職員室にて「授業開始後入室における聴講申請書」を記入し、記入した用紙を担当講師に手渡しして下さい。授業の聴講は許可しますが、出席簿は「欠席」扱いとなります。（公共交通機関遅延により遅延証明書がある場合のみ出席とみなします）。</p> <p>いったん配布した資料の再配布は、資源節約の観点から原則として行いません。なお、これに伴い配布した資料の控えと欠席者分の未配布資料については、当該年度内に限り職員室で保管いたします。授業中に受け取れなかった場合は担任もしくは授業担当者に授業時間外に相談して下さい。紛失等で再配布を希望する場合は、控えを貸出しますので当日中に自己負担で複製下さい。</p> <p><b>【受講科目受講時留意点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●授業中の私語は他生徒への授業妨害になり得ることを自覚して慎んでください。</li> <li>●授業内容への質問は、進行や他の学生との兼ね合いの都合上やむを得ず時間外に受付とさせていただきます。</li> </ul>					
成績評価方法					
評価方法	評価割合 (%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験	100	定期試験を前期と後期の最低2回実施。難易度は国家試験相当として、合格基準を正答率60%以上とする。問題形式は4者択一の他に、必要に応じて他の形式も出題することもある。			
その他		追加で成績加算対象となる課題や試験を実施する場合は都度事前に告知する。（小テストおよび提出物（定期本試験のみ加点の加算））			
(合計)	100				

回数	開講 予定日	テーマ、内容、キーワード 教科書、配布資料	授業日誌	開講日	担当教員 (備考)
1		授業の進め方、試験について <b>第1章 衛生学・公衆衛生学の意義</b> P. 1～		/	久保田
2		<b>第2章 健康</b> 1.健康の概要 P. 11～ 2.-1健康管理		/	久保田
3		2.-2健康管理 P. 18～ 衛生行政		/	久保田
4		2.-3健康管理 P. 28～ 衛生行政 医療制度		/	久保田
5		<b>第3章 ライフスタイルと健康</b> P. 41～ 1.-1食品と栄養 食品の意義と食生活		/	久保田
6		1.-2食品と栄養 P. 50～ 保健機能食品		/	久保田
7		1.-3食品と栄養 食品と疾病 食中毒		/	久保田
8		2.運動と健康		/	久保田
9		<b>第4章 健康と環境</b> P. 77～ 1.環境とは		/	久保田
10		2.-1日常生活環境 物理学的環境要因 化学的環境要因-1		/	久保田

回数	開講 予定日	テーマ、内容、キーワード 教科書、配布資料	授業日誌	開講日	担当教員 (備考)
11		2.-2日常生活環境 化学的環境要因-2		/	久保田
12		3.-1環境問題 公害		/	久保田
13		3.-2環境問題 地球規模の環境問題		/	久保田
14		<b>第5章 産業保健</b> P. 137～ 1.産業保健の意義 2.労働衛生行政		/	久保田
15		3.労働環境と健康		/	久保田
16		4.労働災害とその対策 5.業務上疾病とその対策		/	久保田
17		<b>第6章 精神保健</b> P. 147～ 1.精神保健の意義 2.精神の健康		/	久保田
18		3.-1精神障害の現状と分類		/	久保田
19		3.-2精神障害の現状と分類		/	久保田
20		<b>第7章 母子保健</b> P. 163～ 1.母子保健の意義 2.母体の健康 3.乳幼児の健康		/	久保田

回数	開講 予定日	テーマ、内容、キーワード 教科書、配布資料	授業日誌	開講日	担当教員 (備考)
21		4.母体保護と家族計画 5.少子化問題と子育て支援		/	久保田
前期試験(授業外実施)					
22		<b>第8章 学校保健</b> P.171～ 1.学校保健の意義 2.学校保健とその構造 3.保健教育		/	久保田
23		4.保健管理 5.学校において予防すべき感染症 6.学齢期の健康状態		/	久保田
24		<b>第9章 成人・高齢者保健</b> P.189～ 1.成人・高齢者保健の意義 2.加齢と老化 3.-1生活習慣病の特徴と対策		/	久保田
25		まとめ		/	久保田
26		まとめ		/	久保田
27		試験解説		/	久保田
28		3.-2生活習慣病の特徴と対策 P.193～ 4.高齢者の保健福祉対策		/	久保田
29		5.介護保険 6.難病対策の現状		/	久保田
30		<b>第10章 感染症とその対策</b> P.207～ 1.感染症と意義と種類 2.発生要因		/	久保田

回数	開講 予定日	テーマ、内容、キーワード 教科書、配布資料	授業日誌	開講日	担当教員 (備考)
31		3.感染症予防の原則		/	久保田
32		4.免疫		/	久保田
33		<b>第11章 消毒法</b> P.229～ 1.消毒法一般 2.-1消毒の種類 物理的方法		/	久保田
34		2.-2消毒の種類 化学的方法		/	久保田
35		3.消毒の実際 4.医療関連感染(院内感染)の予防 5.医療廃棄物		/	久保田
36		<b>第12章 疫学</b> P. 249～ 1.疫学の概観と意義 2.疾病の頻度と測定 3.疫学調査研究の段階と実例		/	久保田
37		<b>第13章 保健統計</b> P. 259～ 1.保健統計の意義 2.おもな保健統計とその意義		/	久保田
38		まとめ		/	久保田
39		まとめ		/	久保田
後期試験(授業外実施)					
40		試験解説・国試対策について		/	久保田